

病名ではなくお困りごとから、 というパラダイム転換

日本医療ジャーナリズム賞大賞受賞作が投げかけたもの

鈴木大介（文筆業・当事者5年生
2015年右脳脳梗塞発症）

【病後の著作活動】

『脳が壊れた』（病後1年）～

『「脳コワ」さん支援ガイド』（病後5年）

「見えない障害」＝**脳機能障害全般**の
当事者の苦しさを代弁したい。



僕自身のパラダイムシフトは

「かつての取材対象者」との酷似



【2015年5月・脑梗塞発症】

自身が「見えない・声にならない苦しさ」
を抱える高次脳機能障害の当事者に……

【病前職】 ・ルポライター

テーマは「苦しいと言えない人
＝社会的困窮者の
苦しさを代弁する」

たとえ「苦しそう」「可哀想」
に見えない人でも！

【劇的気付き】

「病前の取材対象者が
訴えていたことと
自分の抱える苦しさの酷似！！

高次脳機能障害とはなんぞ？

日常生活の「当たり前」が、全滅する障害。

(当たり前▶無意識に行えていたこと▶脳が自動的にやってくれていた情報処理)



- ・レジ会計ができない
- ・人混みを歩けない
- ・電話ができない
- ・自然な会話が成立しない
- ・スケジュールを立てたり組み替えられない
- ・気持ちを平静に保てない
- ・多くのものの中から特定のものを探せない (これでごく一例...)

(例) 高次脳機能障害になったら、 駅構内を歩けなくなりました。なぜ？

本来駅構内を歩くのに必要な思考・情報処理って？



いま何時何分？
目的地はどこ？
乗るべき路線と方向は？
その電車は何番線？
どれが一番早い？
何時頃つく？

ところが！ 駅構内は
脳にとっての**情報処理地獄**だった！

構内アナウンス
たくさんの人の話し声
盲導チャイム
行き交う人
きつい香水・体臭
発車ベル
照明ギラギラ
わかりにくい案内板
文字が流れる電光掲示板

情報処理
全滅！！

適切な情報処理とは「必要な情報を処理し」
「不要な情報を無視」すること

訪れる**情報処理の破局**（パニック）

人を上手に避けられない。みんな速い！
いま何時？ 電車の到着案内表示はどこ？
どの表示を読めば？ 文字流れないで！！
で2番線てどこ？ 構内案内がみつからない
ていうか、今何時？
ていうか、何番線に行くん？ 人邪魔！

破局



アナウンスの言葉の意味がわからない
案内表示の文字の意味がわからない
どこに行く途中なのかわからない
いま駅の中のどこにいるかわからない
どうすればいいのかわからない
座り込むしかない

知りませんでした。 パニックはリアルな苦痛を伴う！

朝礼時や電車内の**脳貧血的な具合の悪さ**＝立ってられない

息をしても酸素が入ってこないような**窒息感**

意識を失ってしまうのでは、

救急車を呼ばなければ死んでしまうのでは？ レベルの不安・恐怖

ところが！ はたから見ると
ボケっとしているように見えるらしい理不尽！



気づき

僕の中に「かつての彼ら」がいる



なぜかつての取材対象者たちは、
脳が壊れた僕と**同じ不自由を訴えて**いたのだろうか？

社会的困窮状態

= 脳の情報処理的な危機だから

解決が見えない不安
という
「大容量の脳負荷」

- 1・情報処理速度の低下
- 2・ワーキングメモリの低下
- 3・マルチタスク力の低下
- 4・情緒のコントロール力の低下
- 5・注意のコントロールの低下
- 6・「脳の体力」の劇的低下

+ 社会的困窮に陥りやすい脳特性 = 発達障害・各種精神疾患・被害的過去

社会的困窮者には 脳の機能的な不自由の共通項がある

＝日常の当たり前が全滅しているのが当事者

- 1・問題の認知・問題の優先的解決
- 2・自己の状況の把握 & 他者への説明力
- 3・社会的サービス利用の申請（書類ごと）
- 4・コミュニケーション力の喪失
- 5・疲労感・徒労感

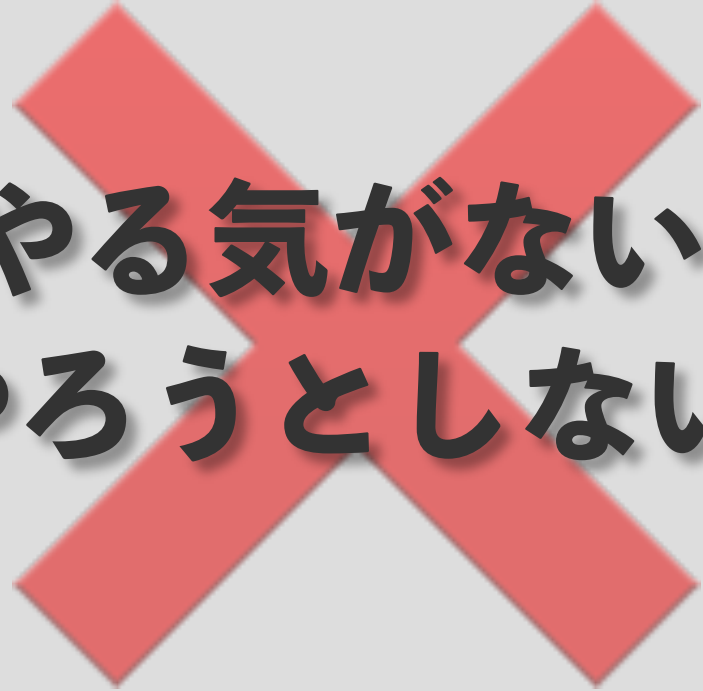


自己責任論の副因

社会的困窮者・貧困ジャーナリズム

やってはならない

当事者取材が横行しているのでは？



やる気がない
やろうとしない



頑張っても
努力しても
やれない

見たままを活写＝自己責任論の餌
映像メディアと当事者の相性は最悪？

社会的困窮者・貧困ジャーナリズム

考慮が必要な当事者視点

その言葉は**当事者の本心**か？

フラッシュバックの**リスクに配慮**は？

対象者の人生に介入しない取材はあるか？

記者 > 当事者 はジャーナリズムか？

医療者 > 当事者 は本当にエビデンスか？